

令和4年3月期

決算概況

のと共栄信用金庫

令和4年3月期 決算の概況

1. 損益の概要

●コア業務純益は3期連続の増益となりました。

利回りの低下が続くなか資金の効率的運用に努めたものの、貸出金利息の減少に加え有価証券関係収益が減少し、経常収益は2期連続の減収となりました。

一方で、預かり資産関係収益の増加と経費の削減に努めた結果、本業の利益を示すコア業務純益は3期連続の増益に、経常利益、最終利益は共に2期連続の増益となりました。

なお、コロナ禍のなか貸し倒れに備えた引当金等が増加したことにより、不良債権処理費用は7.7%増の4億100万円となりました。

<単位：百万円>

	令和4年3月期	令和3年3月期	増減※	増減率※
経常収益	4,072	4,147	▲75	▲1.81%
経常費用	3,781	3,912	△130	△3.34%
コア業務純益	722	588	133	22.70%
コア業務純益 (投資信託解約損益を除く)	665	491	173	35.30%
資金利益	3,424	3,428	▲3	▲0.10%
貸出金利息収入	2,515	2,619	▲103	▲3.95%
役務取引等利益※	115	102	12	12.03%
預かり資産関係収益※	92	66	26	39.55%
経費	2,846	2,964	△118	△3.99%
人件費	1,651	1,661	△9	△0.57%
物件費※	1,083	1,239	△155	△12.56%
有価証券関係損益	23	42	▲18	▲44.53%
債券関係損益	▲20	34	▲55	▲157.74%
株式等関係損益	43	7	36	480.57%
不良債権処理費用※	401	372	28	7.71%
一般貸倒引当金	28	122	△94	△77.12%
個別貸倒引当金	387	218	168	77.35%
経常利益	290	234	55	23.63%
当期純利益	166	138	28	20.45%

※本年度の期首から「収益認識に関する会計基準」を適用し、消費税等の会計処理を税込方式から税抜方式へ変更しました。この変更による影響額は、役務取引等利益で▲36百万円、うち預かり資産関係収益で▲9百万円、物件費で△74百万円です。

※不良債権処理費用は、個別貸倒引当金や貸出金償却等の個別債権に対する処理費用に、一般貸倒引当金、偶発損失引当金および償却債権取立益を加減しています。

※増減(率)欄のマイナス符号は、当該項目の減少が業績の良化要因となる場合は「△」を、悪化要因となる場合は「▲」を付しています。

2. 預貸金等の概要

●預金残高は、前期末比 32 億 5,700 万円（1.0%）増加し 3,286 億 8,400 万円となりました。

低金利環境の長期化を反映し普通預金等へのシフトが続き、要払性預金が 77 億 400 万円（5.1%）増加したのに対し、定期性預金は 44 億 4,600 万円（2.5%）減少しました。また、個人預金と公金預金が増加したのに対し、事業性預金は減少しました。

<単位：百万円>

	令和 4 年 3 月期	令和 3 年 3 月期	増 減	増減率
預 金 残 高	328,684	325,427	3,257	1.00%
定期性	172,521	176,967	▲4,446	▲2.51%
要 払 性	156,163	148,459	7,704	5.18%
個 人	231,855	229,288	2,566	1.11%
個人事業者	23,565	23,945	▲380	▲1.58%
法 人	56,543	57,309	▲765	▲1.33%
公 金	16,720	14,883	1,836	12.33%

●貸出金残高は、前期末比 35 億 6,500 万円（1.9%）減少し 1,783 億 9,300 万円となりました。また、預貸率は 1.64 ポイント低下し 54.27%となりました。

資金の用途別では、事業性融資は増加したものの、住宅ローンを中心とした個人ローンおよび地公体向け融資が減少しました。

<単位：百万円>

	令和 4 年 3 月期	令和 3 年 3 月期	増 減	増減率
貸 出 金 残 高	178,393	181,959	▲3,565	▲1.95%
個人ローン	33,833	34,383	▲550	▲1.59%
事業性資金	115,984	115,554	430	0.37%
地公体向け	28,575	32,021	▲3,446	▲10.76%
預 貸 率	54.27%	55.91%	▲1.64 ポイント	▲2.93%
事業性先数	3,983	4,101	▲118	▲2.87%

●預かり資産残高は、前期末比 15 億 7,900 万円（6.7%）増加し 249 億 8,600 万円となりました。

<単位：百万円>

	令和 4 年 3 月期	令和 3 年 3 月期	増 減	増減率
預かり資産残高	24,986	23,407	1,579	6.74%
投資信託	7,438	6,124	1,314	21.45%
保 険	13,964	14,221	▲257	▲1.80%
国 債	3,584	3,062	522	17.04%

3. 不良債権額（信用金庫法開示債権および金融再生法開示債権）の概要

●不良債権額は、コロナ禍の長期化による経済環境の悪化を反映し、前期末比1億9,600万円（3.8%）増加し53億2,700万円に、不良債権比率も0.16ポイント上昇し2.91%となりました。

また、保全率は前期末比0.77ポイント低下し79.02%となりました。

<単位：百万円>

	令和4年3月期	令和3年3月期	増減	増減率
不良債権額	5,327	5,131	196	3.82%
総与信残高	182,792	186,771	▲3,979	▲2.13%
不良債権比率	2.91%	2.75%	0.16ポイント	5.81%
保全額	4,210	4,094	115	2.81%
貸倒引当金	1,421	1,085	336	31.01%
担保・保証	2,788	3,009	▲221	▲7.34%
保全率	79.02%	79.79%	▲0.77ポイント	▲0.96%

4. 有価証券の評価損益の概要

●その他有価証券の評価損益は、長期金利の上昇により前期末比13億8,000万円減少し、7億1,500万円の評価損となりました。

<単位：百万円>

その他有価証券	令和4年3月期	令和3年3月期	増減	増減率
評価損益	▲715	665	▲1,380	▲207.61%
評価益	562	1,100	▲537	▲48.87%
評価損	1,278	435	843	193.62%

5. 自己資本比率の概要

●積立金等の自己資本は前期末比1億5,200百万円（0.7%）増加したものの、リスクアセットが10億6,100万円（0.7%）増加したことにより、自己資本比率は0.01ポイントの小幅な上昇となりました。

（国内基準）

<単位：百万円>

	令和4年3月期	令和3年3月期	増減	増減率
自己資本額	19,558	19,405	152	0.78%
普通出資等	19,297	19,150	146	0.76%
リスクアセット※	146,490	145,429	1,061	0.72%
自己資本比率	13.35%	13.34%	0.01ポイント	0.07%
普通出資等比率	13.17%	13.16%	0.01ポイント	0.07%

※リスクアセットとは、貸出金等の資産をリスクの大きさに応じて再評価した資産金額です。

6. 出資配当率

●昨年度と同率の2.0%としました。

	令和4年3月期	令和3年3月期	増減
出資配当率	2.0%	2.0%	0.0%

7. 令和5年3月期業績予測

●資金利益の減少によりコア業務純益は4期振りに減益となることが予測されるものの、信用コストの減少により経常利益、最終利益は共に3期連続の増益を見込んでいます。

<単位：百万円>

	令和5年3月期	令和4年3月期	増減	増減率
経常収益	3,881	4,072	▲191	▲4.6%
コア業務純益	653	722	▲68	▲9.4%
コア業務純益 (投資信託解約損益を除く)	623	665	▲41	▲6.2%
経常利益	333	290	42	14.6%
当期純利益	213	166	46	28.1%

以上